

沖縄県移住受入協議会 ニュースレター

おきなわ移住の輪



おきなわ
移住の輪
OKINAWA ijyu

事務局 沖縄県企画部 地域・離島課 地域振興班 TEL (098) 866-2370

平成 30 年 2 月号 (第 19 号)

ハイライト

- 第 2 回沖縄県移住受入協議会が開催され、県、代表市町村、受託事業者より平成 29 年度の活動報告がなされました。
- 地域の世話役養成塾の第 4 回が実施され、受講生に修了証が授与されました。
- 県内で、独自に一步先を行く移住取組を行う久米島町訪問レポートをお送ります。

目次

- 第 2 回沖縄県移住受入協議会開催 …1
- 第 4 回地域の世話役養成塾を開催 …2
- 久米島町訪問レポート …2

第 2 回沖縄県移住受入協議会が開催されました！



1 月 27 日(月)に平成 29 年度第 2 回沖縄県移住受入協議会が開催されました(於: 沖縄県南部合同庁舎)。

県による平成 29 年度の移住定住促進事業の実績報告と次度事業計画の説明、受託事業者一般社団法人しまのわ平田氏より事業報告がありました。

続いてうるま市、久米島町による移住取組が紹介されました。各地における具体的な移住取組のノウハウや、今日に至るまでの住民・行政の変化が詳細に

紹介されました。出席された市町村担当者様にはぜひ地域へ持ち帰り、共有して頂きたいと思えます。

また、県企画部地域・離島課地域振興班長仲村より、ふるさと納税を活用した「ふるさと起業家支援プロジェクト」等の積極的活用のご案内もさせて頂きました。各市町村におきましては、地域に合った有用なメニューはぜひ活用し、移住・定住事業を進めて頂きたいと思えます。

今後の予定

【市町村調査の締め切り】

- 3 月 19 日(月)締切

各市町村移住担当者宛てで、市町村の移住取組調査、行政サービスの調査依頼をお送りしております。ご協力を宜しくお願い致します。(問い合わせ・提出先: 沖縄県地域・離島課 黒川まで)

第4回地域の世話役養成塾を開催しました！

1月12日(金)、県立博物館会議室において、第4回目の養成塾を開催しました。まず、過去3回に渡る養成塾の内容、「世話役の位置づけとは」「自分の地域が将来どうなってほしいか？どのような人に来て欲しいか？」「地元住民が主役となる移住取組とは」等のテーマごとの研修内容を振り返りました。

その後、全回を受講した参加者の方に、修了書が交付されました。今年度は、6市町村より参加した17名が修了書を受け取りました。宮古島市から参加し、自営業者で、自らも移住者である佐々木さんは、研修を振り返って、「これまで自発的に、島で家を探している移住希望者と、大家さんを繋いだり、また島外の人が島で暮らすのを世話してきていましたが、自分のしてきたことがまさに世話役のごとであったのだと気づけたことが収穫でした。また、その活動が地域の未来に役立てられるのだとわかって嬉しかったです」と感想を話されました。また同市の自営業者前里さんも、「私は地域おこしやまちづくりに興味があり受講しました。地元を愛してくれる方に来て欲しいですし、移住後の移住者と受入側のミスマッチも避けたいと思いました。そのためには、地元の良い面、悪い面を見てもらうなどの工夫が必要だと思いました。」とお話くださいました。



写真左)前里さん、右)佐々木さん

久米島町訪問レポート

～ 一歩先を行く島独自の移住取組の現場を視察！～



第2回受入協議会でも、その先駆的な移住取組が紹介された久米島町。昨年12月に島を訪問し、移住定住事業の拠点となる「仲原家」と「じんぶん館」を視察しました。

まず旧家を改修した「仲原家」は、「島ぐらしコンシェルジュ」が常駐し、移住相談者が訪問できる場所として、また久米島町が策定した久米島町移住定住推進アクションプラン「ドリ一部チャレンジ」から生

まれた住民活動実施の場となっています。仲原家は、島ぐらしコンシェルジュのオフィスとして機能しながら、旧家ならではの木の柱、畳間などの空間によって、来訪者もリラックスできる温かい雰囲気がありました。住民活動では、この場の座卓を囲んでの、アットホームな空気の中で、時には賑やかに、真剣に島の未来を語ったり、趣味やインターネット技術講座などの活動が行われているとのこと。



「じんぶん館」は、県外から久米島高校に入学する生徒用の宿泊施設と、町営塾「久米島学習センター」を兼ね備えた施設です。施設は大変清潔で広々としており、学習環境も、生徒の生活環境も整えられていました。このような立派な施設が整備されたのは、一朝一夕の話ではなく、久米島高校園芸科の廃科の危機を回避する為に、平成26年より離島留学生制度として、島外から久米島高校へ入学する生徒を受け入れ始めたことが切掛となっているとのこと。当初は、寮ではなく一般の家庭が「里親」となって子供たちのお世話をしましたが、平成28年からは一括交付金を利用して「じんぶん館」を整備し、寮として留学生を受け入れています。また、その際に、1階を高校生対象の学習塾にし、生徒の学習意欲向上に取り組んでいます。島内の

住民と留学生の交流を初め、お子さんの島留学がきっかけとなり、親御さんも移住してくる例も出てくることで、「学校」を柱として、交流・移住・定住の動きが広がる事例であると思いました。

また、久米島町の移住定住取組の勢いはとどまることなく、現在は「共創移住」という新たな取組を始められています。事業承継や起業を検討している町民の方と、事業パートナーとなる移住希望者をマッチングすることで、双方にメリットがある移住を推進しようという試みです。この新サービスは、移住者にとって心強く、また地域・企業にとっても新たな活気ある風が吹くことが期待されるものであると思います。

